

## 新型コロナウイルス感染症のモニタリング状況

【集計期間（陽性探知日）】

R3.8/23(月)～R3.8/29(日) 令和3年第34週

### <感染の状況（直近1週間）>

項目		現況	前週	ステージⅢ <sup>※1</sup> 指標	ステージⅣ <sup>※1</sup> 指標
陽性者数	① 合計 <sup>※2</sup>	3716人	4308人	-	-
	② 対人口10万人	241.3人	279.7人	15人以上	25人以上
	③ 前週との増加比	0.86	1.10	-	-
④ 感染経路不明割合（%）		77%	81%	50%以上	50%以上
⑤ 陽性率 <sup>※3</sup> （%）＝陽性者数÷検査件数		38.3%	40.6%	5%以上	10%以上

※1 ステージ分類の指標は、新型コロナウイルス感染症対策分科会資料(令和3年4月15日)参照

※2 市内医療機関から川崎市保健所に届出のあった人数を掲載しております。

※3 ⑤陽性率について

自費検査を行う市外の検査機関等で検体が採取された方についても市内医療機関から陽性者の届出がされる事例が多数確認されており、陽性率が実際よりも高い状況となっております。

8月17日掲載分からは、①陽性者合計から市外の検査機関等で検体採取が確認された陽性者数を除いて算出しております。

検査件数は、川崎市健康安全研究所による検査件数と市内医療機関から直近の日曜日までに新型コロナウイルス感染症医療機関等情報支援システム(G-MIS)により報告があった検査件数(速報値)の合算を用いております。

### <医療提供体制等の負荷>

項目		現況	前週	ステージⅢ <sup>※1</sup> 指標	ステージⅣ <sup>※1</sup> 指標
<報告日>		8/29現在	8/22現在	-	-
⑥ 入院患者 (陽性確定例)	入院中の患者数	286人	277人	-	-
	確保病床数	351床	295床	-	-
	病床使用率	81.5%	93.9%	20%以上	50%以上
⑦ 重症患者 (陽性確定例)	入院中の患者数	68人	66人	-	-
	確保病床数	55床	45床	-	-
	病床使用率	123.6%	146.7%	20%以上	50%以上
療養者数 (入院、自宅及び宿泊療養) (陽性確定例)	⑧ 合計	4095人	4143人	-	-
	⑨ 対人口10万人	265.9人	269.0人	20人以上	30人以上

## <参考数値>

項目	現況	前週	ステージⅢ <sup>※1</sup> 指標	ステージⅣ <sup>※1</sup> 指標
<報告日>	8/29現在	8/22現在	-	-
⑩ 入院率 <sup>※4</sup> (%) =入院中の患者÷療養者数(陽性確定例)	7.0%	6.7%	40%以下	25%以下

※4 入院率は、神奈川モデルに基づき、入院優先度判定スコア等を用いて入院適応を総合的に決定しており、「入院率」の指標では病床ひっ迫状況を計ることができないため、参考数値

## <変異ウイルス検出状況>

### (1) スクリーニング検査(変異ウイルスの検出状況)<sup>※5</sup>

#### L452R スクリーニング検査

		直近1週間 8/23 ~ 8/29	前週 8/16 ~ 8/22	累計 3/11 ~ 8/29
川崎市健康安全研究所	検査実施数	211件	299件	1,388件
	検出数	186件	272件	1,150件
	検出率	88.2%	91.0%	82.9%
民間検査機関等 <sup>※6</sup>	検出数	549件	260件	1,449件

### (2) ゲノム解析等<sup>※7</sup>(変異ウイルスの鑑別状況)

	直近1週間 8/23 ~ 8/29	前週 8/16 ~ 8/22	累計 3/11 ~ 8/29
α株(アルファ): 英国株	0件	0件	203件
β株(ベータ): 南アフリカ株	0件	0件	0件
γ株(ガンマ): ブラジル株	0件	0件	0件
δ株(デルタ): インド株	0件	0件	9件

※5 従来株から N501Y 変異株にほぼ置き換わった一方、市内においても L452R 変異株が増加しつつあることから、厚生労働省通知に基づき、L452R 変異株の監視を強化するため、健康安全研究所による N501Y スクリーニング検査は、7月19日以降、実施しないこととしました。

※6 民間検査機関等による検査実施数は不明のため、検出数のみ掲載

※7 ゲノム解析の検査結果は不定期で報告されている。

## <評価>

令和3(2021)年8月23日(月)～8月29日(日)(令和3年第34週)の川崎市内における新型コロナウイルス感染症のモニタリング状況は、第30週より5週間連続してステージ分類の6項目中6項目すべてがステージIVとなっていますが、6項目すべてが若干ですが前週に比べて数値が低下しています。しかし、注意が緩んでしまうと再び数値は増加してしまいます。皆さま方には大変なご不便をおかけしておりますが、高止まり状態から減少傾向に続き、重症患者発生を少なくし、一般の医療が維持され、日常生活や経済状況が回復できますよう、感染リスクが高まる行動はできるだけ避けてくださいますよう、重ねてご協力の継続をお願いいたします。

## <感染の状況:直近1週間>

- ① 新規陽性者数は、第24週(6月14～20日)の305人まで減少しましたが、第25週339人から、349人→526人→831人と増加しました。第29週に1156人と第1週のピーク1123人を上回り、その後は第30週2680人から、第31週3283人、第32週3920人、第33週4308人と急増しましたが、第34週(今週)は3716人と減少しました。
- ② 対人口10万人あたりの累積新規陽性者数も、第24週(6月14～20日)の19.8人まで減少しましたが、第25週22.0人から、22.7人→34.2人→54.0人と増加しました。第29週に75.1人と第1週のピーク73.4人を上回り、第30週174.0人から、第31週213.2人、第32週254.5人、第33週279.7人と急増しましたが、第34週(今週)は241.3人と減少しました。しかし、ステージ分類では、8週連続してステージIV相当(25人以上)となっています。
- ③ 前週との増加比は、第24週(6月14～20日)は0.87と低値でしたが、第25週1.11から、1.03→1.51→1.58と増加しました。第29週は1.39と一時減少しましたが、第30週は2.32、と急増した後、第31週1.23、第32週1.19、第33週1.10と減少し、第34週(今週)は0.86と、10週間ぶりに1.0を割りました。真の減少かどうかは慎重に見る必要がありますが、1.0をこのまま下回れば新規患者数が減少傾向に転じます。その結果2～3週遅れて入院数、重症者数の低下につながります。市内において陽性者の低下につながるよう、ご理解とご協力をお願いいたします。
- ④ 感染経路不明者の割合は、第20週以降は50%以上、第27週の62%から、61%→70%→72%→73%→79%→81%と増加しましたが、第34週(今週)は77%とやや減少しました。しかし、ステージ分類では、17週連続してステージⅢ・Ⅳ相当(50%以上)となっています。
- ⑤ 検査陽性率は、第17週より第20週までステージIV相当(10%以上)が4週間連続し、第21週以降はステージⅢ(5%以上)とⅣ(10%以上)を交互に繰り返していました。その後第27週の12.9%から、20.2%→37.2%→41.9%→46.1%(第31週)→54.9%(第32週)と急上昇しました。

この検査陽性率の急上昇については、感染の状況の表の※3の説明をご覧ください。

本項目につきましては、第32、33週は、これまでの数値と、※3の説明にある陽性者数を除かずに算出した陽性率を括弧内に掲載しましたが、第34週(今週)以降は括弧内の数値を外して、陽性者合計から市外の検査機関等で検体採取が確認された陽性者数を除いた数値から算出した陽性率を掲載しております。

新算出方法では、第31週37.9%、第32週42.9%、第33週40.6%、そして第34週(今週)は38.6%とやや減少したことになりますが、ステージ分類に変化はなく、8週連続してステージIV相当となっています。

## <医療提供体制等の負荷:報告日8.29現在>

- ⑥ 入院中の患者数は、第22週より90人→75人→69人→76人→70人と増減していましたが、第27週79人、第28週99人、第29週113人、第30週150人、第31週202人、第32週236人、第33週277人と増加し、第34週(今週)は286人とやや増加が続いています。

第25週に入院患者数は増加したものの確保病床数が241床から284床に増加したことにより病

床使用率は第25週26.8%、第26週24.6%と減少しましたが、第27週27.8%、第28週34.9%、第29週39.8%と増加しました。第30週は病床数が4床増加され合計288床となりましたが病床使用率としては52.1%、第31週は70.1%とさらに増加しました。第32週は、病床数が7床増加になりましたが病床使用率としては80.0%と増加し、第33週は93.9%とさらに増加しました。第34週(今週)は、確保病床数が56床増加し合計351床となったため、病床使用率は81.5%と減少しました。ステージ分類では、記録を開始した第17週以降13週間はステージⅢ相当(20%以上)でしたが、第30週から5週連続してステージⅣとなっています。

- ⑦ 重症入院患者数は第21週に24人となりましたが、第23週から第29週(前週)まで10~14人を増減していました。第30週は23人と増加し、第31週42人、第32週54人、第33週66人と増加が続き、第34週(今週)は68人と若干の増加にとどまっています。重症者の病床使用率は確保病床30床のうち、第20週53.3%、第21週80.0%、第22週76.7%と3週連続してステージⅣ相当(50%以上)でしたが、その後はステージⅢ(20%以上)状態を7週間維持していました。しかし第30週は、76.7%と急増して再びステージⅣ相当となり、第30週は140%に増加しました。第32週には病床確保数が15床増加して45床となり、病床使用率は120.0%となり第31週の140.0%を下回りました。第33週は146.7%と再び増加しましたが、第34週(今週)には重症患者確保病床数が10床増加し合計55床となったことにより、病床使用率は123.6%と減少しました。しかし、ステージ分類ではステージⅣが5週連続しています。(病床は重症確保病床以外の集中治療室(ICU)等も使用しているため、病床使用率としては100%を超えた数となっています。)
- ⑧ 陽性確定例の入院・自宅および宿泊療養者総数は、第20週から第25週389人まで5週連続して減少が続き、その後第26週476人から、606人→935人→1325人→2331人→2692人→3570人→4143人と急増しましたが、第34週(今週)は4095人と若干減少しました。
- ⑨ 陽性確定例の入院・自宅および宿泊療養者数の対人口10万人は、第25週25.3人とそれまで9週連続してステージⅢ相当(20人以上)でした。その後第26週30.9人から、39.4人→60.7人→80.6人→151.4人→174.8人→231.8人→269.0人と急増し、第34週(今週)は265.9人と若干減少しました。しかしステージ分類では、9週連続してステージⅣ相当(30人以上)となっています。

#### <変異ウイルス検出状況>

L452R変異株(デルタ株と考えられる)スクリーニングは川崎市健康安全研究所では第24週3件から、1件→2件→6件→20件→52件と推移し、第30週170件、第31週207件、第32週224件、第33週272件と増加しましたが、第34週(今週)は186件とやや減少しました。検出率は88.2%となっています。なお民間検査機関からは第26週4件から、11件→29件→57件と増加し、第30週102件、第31週298件、第32週137件、第33週260件、第34週549件との報告を受けています。

国立感染症研究所による詳細なゲノム解析による分類結果は、第34週(今週)は届いてはならず、アルファ株( $\alpha$ :英国株)、ベータ株( $\beta$ :南アフリカ株)、ガンマ株( $\gamma$ :ブラジル株)、デルタ株( $\delta$ :インド株)について新たに確認されたものはありませんでした。これまでの累計は、アルファ株203件、ベータ株0件、ガンマ株0件、デルタ株9件となっています。

8月27日に、それまで東京都・埼玉県・千葉県・神奈川県・大阪府・沖縄県・茨城県・栃木県・群馬県・静岡県・京都府・兵庫県・福岡県に発せられていた緊急事態宣言は、北海道・宮城県・愛知県・岐阜県・滋賀県・三重県・岡山県・広島県の計21都道府県に拡大され9月12日まで、まん延防止重点措置地域は、福島県・山梨県・富山県・石川県・香川県・愛媛県・熊本県・鹿児島県に高知県・佐賀県・長崎県・宮崎県を加えた合計12県となり、同じく9月12日までとなっています。

本市におきましては、第20~21週あたりをピークに新規陽性者数は第24週までいったん減少しましたが、第25週、第26週は微増、第27週、第28週(前週)は明らかな増加、第29週より急峻な増加となり

第33週に至り、第34週（今週）は減少となりました。増加率は3週連続して低下傾向を見せていましたが、第34週（今週）は0.86と、10週間ぶりに1.0を割りました。

入院中患者数は、第27週から第29週と増加し、第30週から第33週にかけて急な増加となっていました。第34週は若干の増加にとどまっています。重症入院患者数は第29週までは大きな変化はありませんでしたが、やはり第30週より急な増加となり、第34週（今週）は若干の増加にとどまっています。高齢者の新規陽性者数、クラスター例は少なくなっていますが、中年層、若者層での患者数、中～重症者数の増加が目立っており、引き続き十分な注意と警戒が必要です。

ステージ分類の指標となっている6項目（参考数値を除く）のすべてが第30週から5週間連続してステージIVとなっていますが、第34週（今週）は、6項目すべてその中の数値は、前週より数値が低くなっております。

神奈川県が緊急事態宣言地域となったことに伴い、本市も緊急事態宣言地域となっております。大変なご不便、ご迷惑をおかけしておりますが、第34週（今週）は、市民の方々のご理解ご協力のたまもので、新規陽性者はやや減少となり、入院者及び重症者は若干の増加に留まりました。治療は医療機関で行いますが、新型コロナウイルスに感染しないようにするのは、市民御一人御一人の注意によります。ご自身が重症者にならぬよう、身の回りの方が重症者にならぬよう、新規患者数の減少が続き、入院数・重症者数が減少傾向に転じるよう、感染リスクが高まる行動はもうしばらくの間避けるよう、よろしく願いいたします。人の動きの低下は感染症の減少に一致しますので、不要不急の外出はできるだけ抑えてくださるよう、よろしく願いいたします。一方、屋外での運動や散歩などは健康の維持のためにも必要です。また、もしどちらかへお出かけになる時には、感染リスクの高い所や混雑する場所・時間帯は避け、家族単位などの少人数で過ごされますようお願いいたします。いつもの行動を半分くらいに抑えるつもりで行動していただくと、新規陽性者数が減少し、ひいては入院や重症患者発生が少なくなり、一般の医療が維持され、さらに日常生活や経済状況の回復につながります。

三密を避ける、適切な距離が保てないなどの時はマスクをつける、換気に気をつける、手洗い・手指の消毒をこまめにするなどは、日常生活においても飲食などの場においても、感染の拡大を予防するための基本的なかつ重要な注意点であり、これまでのウイルスであっても変異型のウイルスであっても共通の、また有効な予防対策法です。

朝晩涼しくはなってきたものの、厳しい残暑が続く日々となっております。暑さ対策、水分の補給、場所に応じたマスクの使い分け、そして自然災害などへの注意・備えもお忘れなくお願いいたします。